

## リレートーク

# リレートークへの 問題提起

菅野正純（日本労働者協同組合連合会）

リレートークへの問題提起をさせていただきます。佐木先生から八幡製鉄のスクラップヤードでの下請工の死者、事故隠しというところから始まって、刑務所に服役している人が実は隣人たちのやさしさに飢えている人なんだ、というお話を伺いました。このことを通じて私たちは、人と人との協同というものが持つが持つ、人間にとっての根源的な意味というものを教えられたように感じました。堀内さんから、ディーセントワーク＝人間らしい労働をどう実現するのか、ということが今日の世界の最大課題の一つになっている、その（実現の）有力な候補として協同組合がある、という位置付けをして頂きました。中でも失業と戦争、平和と労働という問題にも言及して頂いたように思います。

そのことからの関連で言いますと、アメリカで共和党が勝利をするという中で勢いづいて、イラクに対して大量破壊兵器の査察を受けなければ戦争を仕掛けていくという方向が強まっています。しかし、「大量破壊兵器」と言うならば、大量破壊兵器を最も生産し、最も大量に輸出し、最も大量に現に



使ってきたのはアメリカではないでしょうか？アメリカこそ最大のテロ国家ではないでしょうか。

アメリカのブッシュ政権は、石油産業と兵器産業のメンバーが閣僚に入ってきている政権です。戦争から利益を得るもの、戦争を渴望するものが政権を構成している国がアメリカなんだ、ということを私たちは忘れるわけにはいけません。

大量生産・大量消費・大量廃棄というあり方が、根本的に行き詰まっている。そしてそれに替わって今何をやっているかと言えば、バブル的な投機をもって利潤をあげていく、ということ。しかしこれもまた行き詰まってきたという中で、恒常的な戦争体制というものの中に、新たな企業の利潤を見出そうとしているのが実態ではないでしょうか。

私たちが言っているのはグローバル化そのものを否定することではありません。しかし、グローバル資本主義、グローバルな大企業がどのように人間の生命を奪い取りながら利潤をあげていくことや、大量の失業や不安定就労を全世界的に拡大していくと

いうあり方に対して、どう立ち向かっていくのか、というのが課題としてあるし、今度の協同集会は、本当にその意味で人間の協同とか協同労働ということが根本から問われている、という中で開かれている集会ではないかと考えます。

リレートークの事前資料集を読ませて頂いて、この人々は今まで自分の活動・事業を「協同」とか「協同労働」と呼んだか呼ばないか、それはわかりません。しかし、この人々がやっていることは本当に今のようなグローバル資本主義の破局的な状況を根本から乗り越えていく「協同」であり「協同労働」の実践を本当に先駆的にやられている人だ、その意味でこのリレートークは大変画期的なものになる、と期待しています。

私たちが、このリレートークから学ぶ視点について少し提案させていただきます。

第一には、「協同」ということなんです。人と人とのつながりの中で、地域の人間的な暮らしを実現していく、このことを「協同」とするならば、多くの人々が今何よりもそのかけがえのなさ、「協同」ということの必要を感じていますし、それに応える活動が、広がっているんだということを、このリレートークから学びたいと思います。

第二点は、そういうことを「労働」として、働く人々が協同して、利用する人々協同して、地域に人と人との協同を作り出していく労働。この中で、人の命や暮らしや一人ひとりの人生というものを本当に豊かに支え発展させていくという、そういう仕事が現に事業として、労働として成り立って発展しているという様を見ていきたいと思います。

第三番目に、これまで「公共」といえば官僚的な行政の担当分野だと思われていたの

が、街づくりとか、地域経済の再生循環といったことを考えていくと、もはやこれは行政がひとりではないうることで全くなくて、働く人々、市民が協同や協同労働を通じて初めて根底からそれが実現されていくものではないか。そのことを、この報告者の方々は立派に語っておられると思います。

最後に、このような「協同労働の協同組合」が今、法制化に向かって前進しようとしている。坂口厚生労働大臣の答弁を読ませて頂くと、「」。このような答弁を引き出すことができた。今まで、「協同労働の協同組合」法がない、したがってそれを促進する政策がないという状況に置かれてきましたが、法制的な裏づけを得て、促進の対象に社会的・公共的に促進すべきものとなっていく日が近づいていると考えています。その点で市民の協同や協同労働を実現していく上での、組織や制度・政策についてもよりこのリレートークの中で、自由闊達に議論して頂き深めて頂けたらと思います。

